

# 国鉄労働運動破壊の尖兵=動労本部「革マル」弾劾



83. 2. 7

No. 1260

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

## 松崎明の『申し入れ』と『国労襲撃の反労働者性』

『日刊』第一二五五号で明らかにした通り、首都圏を中心に開始された動労「本部」革マル反動分子らによる、国労組合員へのつるし上げ組織破壊攻撃は、国鉄労働運動破壊に全体重をかけて襲いかかっている敵階級の意を体した許すべからざる反労働者の犯罪行為である。そのための「口実づくり」として昨年暮、国労あてに送りつけられた動労東京地本委員長・松崎明名による『公開討論の申し入れ』なるものの内容は、まさに怒りなしには読むことはできない恥知らずな居直りであり、国労と戦闘的国鉄労働運動に対する襲撃＝解体宣言に他ならない。

「日和見・裏切り」をこえて、「闘う労働者を襲う集団」へと反動的に純化  
『申し入れ』は言う。

貴組合とわが動労東京地本は、以上の立場を基本として様々な障害をのりこえつつ、国鉄労働者の大同団結をめざして四労組共闘の確立のために奮闘してきたと思えます。しかし、ブルジョア的旅費問題や五七・一一ダイヤ改訂期における貴組合の独善的で排外主義的対応は現情勢のなかにおいて、国鉄労働者の利益を保障するものではありません。労働者の階級的団結をよりいっそう打ち固めるものとはなりません。  
（抜粋）

つい数カ月前、全労働者の眼の前であれだけおっぴらに次から次へと裏切り、「臨調・自民党・国鉄当局と酒席談合」し、「太田労政の尖兵」「第二鉄労」の名をほしきままにしてきた彼らが、今、口を開けばヌケヌケとこんな言葉を吐いているのだ。断じて許せない！

まず第一に、（裏面掲載の『証拠資料』を見るまでもなく）この間の彼らの裏切りの事実は一歩のくもりもなく明らかではないか。又、「共闘関係を一方的に破壊し、裏切った者」こそ他ならぬ動労「本部」革マルの方であり、居直りもはなはだしい。

第二に、更に許せない重大な事は、自らが早々と屈服し裏切り妥結したというにとどまらず、必死で闘い続けている国労や動労千葉の闘いを「挑発主義」と口汚くののりして背後から襲いかかり、目的意識的に闘争圧殺の敵対行動をくり返していることである。それは「57・11ダイヤ改」闘争を例にとっても、「動労の仕切り以上の内容を国労や動労千葉に与えたりしたら承知しないぞ」と当局に申し入れたり（11月12日）、「上越新幹線一番列車をスト破り運転で保障するから、万全の警備体制をとって動労乗務員を保護してくれ」と権力・当局に頼みこみ（11月13日）、又一方で、総評が国労スト支援を決

めたことを口をきわめて非難し「支援するな。ストをやめるよう指導せよ」と申し入れる（11月10日）などという労働者階級の立場に完全に敵対する行動をくり返した事でも明らかである。この点は決定的に重大な事である。これは、もはや単純な「日和見主義」などという水準のものではない。ましてや「動労の職能主義的偏向」などからくるものでも決してない。パリケードの向うの発想であり、敵階級の立場と言わざるをえないものである。

### 歴史の教訓——ナチスの果たした役割

一九三〇年代を前後する激動のドイツの階級闘争の歴史が重要な教訓を伝えている。危機と激動の深まりの中で、既成革新勢力が無力をさらしている状況について、「ドイツ社会主義労働者党」という、いかにも、新しい社会主義・革新勢力・労働者の味方であるかの仮面をつけたヒットラーが抜群のベテン・謀略・暴力を駆使して、労働組合内にも急激に勢力をのばしていった。しかし現実には彼らナチスのやった事は、「国の危機の前には労働者のエゴを棄てよ。スト絶滅。働こう！」と叫んで権力と一体となって、闘う労働者・労働組合を背後から襲撃して次々と暴力的に解体し、デマ宣伝や謀略を百遍くり返して「真実」にすりかえるやり方で「国の危機を救い、よく働く労働者」の御用労働組合につくり変えてしまうことを通して戦争体制づくりを行い、ついにはあの残酷きわまりない大虐殺と侵略戦争へと全世界をひきずりこんでいったのである。これが「ドイツ社会主義労働者党（略称ナチス）」という看板と仮面のもとで行われた歴史的事実なのである。

### ナツパ服・ヘルを「仮面・看板」にさせてはならない！

今日の動労「本部」革マル反動分子の動労千葉や国労への反労働者の襲撃は、「労働組合」の仮面をつけて、闘う労働組合を権力と協力して解体しようとする「現代のナチス」の役割を果していると言わざるをえない重大な問題を全労働者につきつけている。（続く）

4月 船橋市議選、中江昌夫候補の必勝へむけ全力疾走へ！  
「1人5票獲得」運動を強化しよう！  
推せん候補の全員当選で、反動中曾根内閣を追いつめよう！  
市町村議推せん候補

- 成田市＝北原 敏治
- 習志野市＝山野 井昭三
- 銚子市＝佐藤 新治
- 勝浦市＝鈴木 治資
- 鎌ヶ谷市＝網野 博光
- 館山市＝田沢 勝信
- 浦安市＝渡辺 一男
- 旭市＝神子 功
- 小見川町＝井上 千明
- 長南町＝志鎌 定彦
- 大原町＝荒井 正
- 九十九里町＝鈴木 美好
- 富里村＝増田 茂
- 千葉市＝小川 義人
- ＝中堀 きみ子

訂正とおわび  
『日刊』第一二五九号の「鹿鉄局での処分」に関する記事で、処分通告日付と人数に誤りがありました。正しくは「1月21日に、6名の組合員と5名の管理者に処分：」です。なお「門鉄局での勤務時間内入浴を理由の不当処分」は11職場の約五百人にのぼると伝えられます。

# 資料 その2

「われわれ動労東京地本は、…国鉄労働者の階級的利益を具体的に保障していく方向で対処してきたと確信しているところであります。…」(「国労への公開討論の申し入れ」より)……と、松崎 明君。 いやはや、口は便利なものだ…

## しかし、動労本部革マルの裏切り行為の 事実 は 事実だ!

(1982年 11月~12月)

「現協」改悪にまっ先にとびつき、職場闘争を圧殺する動労「本部」革マル。

(1982年 10月~11月)

「57・11ダイヤ改」で第2鉄労の大裏切り! 権力・当局に、国労・動労千葉への弾圧を たのみこむ動労「本部」革マル。

①最初から、現協破壊攻撃を受け入れるつもり。又も、「動労=鉄労」連合だ!!

### 現場協議制を改定

紛争処理に限定

②まっ先に「当局案」(職場交渉権の完全骨髄を、当局の一方的通告の場)を一字一句の修正もなく受け入れて妥結。(動労妥結11月21日午前一時。)そして、動労が鉄労に対して「早く妥結してくれ」と説得に当たった結果、一日朝になって鉄労が、ついで午前九時半に全労協が妥結した。職場の決起・活性化を鉄労以上におそれているのが動労「本部」革マル分子であることを、雄弁に物語っている事実である。

十九日(金)にこの面交で、明に「妥結」した。この結果、現場協議制の改定は、鉄労の意向を反映させた。この結果、現場協議制の改定は、鉄労の意向を反映させた。

場協議を改定したが、鉄労と動労、金協の三組合は面交し、ブルターニュのヤミ手協賛関係は維持された。鉄労と動労の意向を反映させた。この結果、現場協議制の改定は、鉄労の意向を反映させた。

11月4日、鉄労と肩を組み早々と「片仕切り」で妥結。動労「本部」の裏切りが、当局の高圧姿勢を一層助長。

### 国鉄当局 国労に業務命令へ

従わなければ処分

新ダイヤ非協力闘争に強硬策 従わなければ処分 全国管理局会議で指示

③「国労は順法・ストをやめろ」と闘争破壊// 東京地本では「口頭指令」による回復運転を、た動労組合員が国労組合員から「国労の仲間」の目撃し、合意のない新ダイヤ非協力的な闘争目標として、国労組合員と共同して、当面国労組合員が現場で交渉する。この結果、現場協議制の改定は、鉄労の意向を反映させた。

糾弾される事態も発生 (T電車区)

11月10日、驚くべき労使一体化・産報化協定を締結!! (鉄労と同じ協定文)(国労・動労千葉等はこの協定は拒否)

【57・11ダイヤ改正の実施に伴う労働条件に関する協定】 57・11ダイヤ改正にあたっては、国鉄のおかれた状況を認識し、これまでの事前協議、団体交渉の経緯を尊重し、労使の信頼関係に立脚し、協定・協約等を遵守して、円滑な実施をはかるものとする。 昭和57年11月10日 日本国有鉄道総裁 高木文雄 国鉄動力車労働組合中央闘争委員長 八塚重一

闘争継続している国労を「もっと叩け」と当局を反動的に尻押し!!

電話連絡 第132号 発行責任者 組織部 1982年 11月 12日

国労の57・11ダイヤ改問題をめぐる動向と当面の対処方針について

I. 国鉄当局の動向について

(1) 当局は国労の強硬な要求に対し、当局としての立場を明示する等であり、同時に動労が締結した協定以上の内容を国労に提示することはできないとの立場のなかで、いよいよトリアゴ交渉に応じておしよりの交渉を国労側に押しつけていき、動労としてはこの間の交渉の経緯が、協定の内容からして、国労要求に上積みはほとんどないことは明らかで、当局に対し、重大な決意を表明することはできない。(※動労「本部」の電送指令第132号の抜粋)

(一九八二年三月~六月) 臨調II自民党II国鉄反動 太田労働のしもべに転落した動労「本部」革マルII松崎明。

既得権剥奪攻撃の突破口として攻防の最重要焦点となっていた「ブルトレ問題」での動労革マルの裏切りはかく行われた。

昭和57年7月14日

ブルトレのヤミ手協賛関係は維持された。ブルトレのヤミ手協賛関係は維持された。ブルトレのヤミ手協賛関係は維持された。

自民党、国鉄当局と卑屈なゆ着IIゴルフ・酒席談合

談合のメンバーII自民党国鉄小委員会三塚、ロッキード汚職議員加藤、国鉄本社職員局長太田、動労東京地本委員長松崎明。談合の場所および回数II銀座・六本木の料亭・クラブで数回。

### 動労も返済に同意

ブルトレのヤミ手協賛関係は維持された。ブルトレのヤミ手協賛関係は維持された。ブルトレのヤミ手協賛関係は維持された。

### 82年7月3日 宣言

ブルトレ旅費返済の大裏切りノ組合間の信義なで平気で裏切り、既得権全面返上を当局に誓約した動労「本部」革マル。

(一九八二年六月)